



ほっと通信

あっという間に10月に入りました！
今週末はいよいよSE公開研！
元気に乗り切りましょう！

9月30日、吉川先生が3年生で社会科「店ではたらく人々の仕事」の研究授業をしてくださいました。子どもたちが前のめりになるようなしなやかな工夫がたくさんあり、テンポの良い授業で、とても充実したあっという間の45分でした！！子どもたちの素敵な表情や友だちとの関わりががたくさんあり、思わず写真をいっぱい撮りました！！
吉川先生、3年生の子どもたち、ありがとうございました！！

10/5 3年社会「店ではたらく人びとの仕事」

授業レポート！

「やりたい」を生むグッズ！



・封筒の中に、近隣のスーパーのチラシ（しかも全て違うお店！）が入っていました。馴染みのあるスーパーなのでワクワクしながら、そして一人1枚あることで、じっくり見ることができていました。しかも自分だけのチラシなので責任感を持って調べようとする姿がありました。

・チラシで産地がわかったら、カレーの具材があらかじめ印刷されたシールを、地図に貼っていきました。シールは具材ごとに牛乳パックで作った入れ物に入っている上、ゴミ入れまであるきめ細やかさには驚かされました！！活動がシンプルでわかりやすく、全員が集中して活動に取り組めていました。さらに、カレーの具材以外にも調べて貼れるようになっており、作業に飽きがこないようにしているのも良かったです。仕上がった地図からは、北海道や九州、外国からも食材が仕入れられていることが視覚的に読み取ることができました。

社会の言葉を使って

「産地」「仕入れ」という2つの社会の言葉を説明した後、5回唱えさせたり、その言葉の当番を決めたりして、覚えやすいようにされていました。授業の中で、子どもたちが「産地」「仕入れ」という言葉を使って発表したり、ノートに書いたりしたときは、社会の言葉を使っていることを褒めておられました。社会科で出てくる言葉は子どもにとって馴染みがなく、難しいですが、このように印象づけられるような活動があると楽しく身につけられてとてもいいなと思いました。

聞き名人

グループ内での共有や全体共有の時、「あ〜」「たしかに」「なるほど」と共感の声が出ていました。教室に貼っている模造紙の言葉もどんどん増えていっており、聞き合うことの良さを子どもたちが実感し、価値づけられているところが素敵です。



疑問で始まり疑問で終わる

「どうやってこんなに商品があるのか？」という子どもが持った疑問から授業が展開し、活動を通して生まれた疑問も最後に出させていました。『ぎもんを持つ時の言葉カード』をヒントにノートを書く姿もありました。「本当に腐らないの？」「災害で野菜が取れなくなったらどうするの？」など、新たな疑問を持つことで、今後の学習意欲に繋げるようにされていました。吉川先生は、普段から社会科の授業で、疑問を見つけて意欲的に追究することを大事にされているそうです。疑問を持つことは、「学びたい」「調べたい」といった主体的な姿に繋がるので、とても大事な視点だと思いました。